

2007年「森と木の家講座」で、葛布をテーマに行われた勉強会の様子。機織機を覗き込んでる男性がNさん。

私が初めてNさんご家族にお会いしたのは、5年ほど前の晚秋の頃。「実際の家造りは子供の小学校入学に合せてと考えているが、木や家の事をゆっくりと時間をかけて学んでいきたい」とNさんが話されていたことを覚えていました。当時、木や山の事をもっと深く理解していくないと考えていました。私は、山に出かけて伐採体験をしたり、職人を講師に迎えた勉強会などを設計者仲間と共にやっていました。そんな私の思いとも重なり、Nさんは様々なイベントに参加していただき、共に学んでいきました。

土地探しも数年経過した頃、Nさんが現在の土地を見つけてきました。早速、現地を確認しましたが、そこには造成予定の松の山林…。そのままではイメージもつきにくかったのですが、周辺環境も良く、地盤も良好と聞き、この土地を建築地にすることに決めました。当初は、80坪程を購入しようとしていましたが、おかあさんも一緒に住むこととなり、150坪の土地に2世帯住宅を建築する事になりました。

様々な体験や勉強を重ねて、ながら、一方で進めていったのは「土地の購入」です。せっかく木の家を建てるのなら、少しでも広くのびのびと暮らせる場所が良いのはもちろんですが、そういった場所は進入路が狭かつたり、上下水道などの設備に問題が有ったりと、簡単には見つけられませんでした。候補地が見つかると私も現地を確認し、建築屋から見たアドバイスを言わせてもらったり、時にはその敷地に合せてプランを作成したりしました。

Nさんご家族の家造りは、5年の歳月をかけて様々な体験を通して学び、そしてチャレンジすることで築かれていきました。の中でも特に力を注いだのは外壁で、二世帯住宅の全ての壁が、焼いた杉板で造っています。その製作模様も含めて、「種の家」をご紹介したいと思います。

「種の家」



ゆっくりと時を掛け、沢山の想いを重ねた家。

文／山崎健治
写真／古屋絵理



- 1／正面はお母さんの家の入り口で、藍で染めた葛布を硝子戸に挟み込みました。
- 2・3／H・W・Fの久留さん製作のダイニングテーブルです。ナラの一枚板は7cmほどの厚みが有り、存在感抜群です。
- 4／お母さんの家のリビングには蓄熱式暖房機を設置しました。電気で暖められた特殊なレンガが放熱し室内を暖めます。輻射熱で暖めるので心地よい温かさです。
- 5／おなじみの階段下収納です。ちょっとした空間ですが、大きな収納力があります。



Nさん家族の2世帯住宅は、玄関のみを共有した形で2棟の家に分かれています。向て右がNさんの家。左がお母さんの家です。屋根の形も特徴的ですが、屋根の葺き方に工夫があり、瓦の越葺きをイメージしています。

Nさんち



「種の家」も、実りの時。

仕様 内容	家族構成	家族 5 人
	敷地面積	506.99 m ²
	建築面積	118.01 m ²
	延べ床面積	187.02 m ²
構法	屋根	板倉構法 2階建て (N邸)
	外壁	在来構法 2階建て (お母さんの家)
	外部建具	ガルバリウム鋼板 縦ハゼ葺き + ガルバリウム鋼板 アポロルーフ横葺
	外壁	焼杉ベンガラ入りオイル塗り
内部仕上	外部建具	アルミサッシ + ヒバ木製建具 (ペアガラス)
	天井	化粧野地板現し + 杉 J パネル現し
	壁	落し込み板現し + 漆喰塗り (N邸)
	床板	クロス貼り (お母さんの家)
内部仕上	内部建具	杉本実板
	浴室	ナラ板張り + タイリ貼 (N邸)
	浴室	ユニットバス / タカラ (お母さんの家)
	設備	キッチン / オリジナル 浴槽 / TOTO
設計者	設計者	山崎健治
	施工	有限会社こころ木造建築研究所



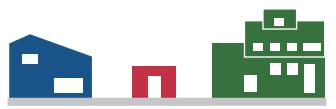
なつたのではないでしようか。建具屋さんを講師に迎えて行つた椅子作りワークショップでは、Nさんは熱心に建具の仕組みを学ばれ、それが打合せの際に活かされたのではないかと思います。また講座で知り合つた職人さん達とも既に顔見知り。現場では、施主と職人という堅い空気ではなく、気さくに話しかけ合う姿も多く見られました。時と手間を掛けてきた道のりは、知識だけでなく、人と人をも結びつけてくれたのですね

ご紹介します。

2世帯住宅といつても、当初Nさんご家族の考えは一つの土地の中に2つの家を建てるという計画で、完全に分離した2つの家を建築する予定でした。しかしコストや設備の無駄を省くため、最終的には玄関を共有した左右分離の2世帯住宅の案に決まりました。

家造りの前段階で、勉強会や完成現場見学会などに積極的に参加されていましたから、細部の打合せでも、自分たちに合った素材や設備機器、家具や建具などをイメージ出来ていていたようです。襖や硝子戸には葛布を採用しましたが、葛布をテープに取り上げた講座の中で実際に編む経験をさわ

打合せを進めていく中で、私は
思い切つて大きな提案をさせてい
ただきました。それは「焼き杉板
の外壁」にする事。しかも、その
焼き杉板をNさん一家に製作して
もらうというものでした。Nさん
にとつては突然の提案でビックリ
されたと思いますが、家造りの前
からいろいろな体験をし、一緒に
学んできたNさんならチャレンジ
出来るのではないかと思いまし
た。どれだけの日数が掛かるの
か?やり遂げられるのか?など、
不安もありましたが、「全ての外
壁を焼き杉板でやろう!」と奥さ
んの強い決意もあり、焼き杉板の
製作に挑戦することに決まりまし



焼き杉ワークショップ実録

「焼き杉」作り 大奮闘記！

それはNさんの決意から始まった。

「全ての外壁を焼き杉でやるー！」

皆で造り上げた「種の家」。

とNさんの決意から始まつた焼き杉製作への道のりは、並々ならぬ苦労がありました。一軒分でも大変な量の外壁を、二軒分全てを焼くのですから、容易く出来るものではありません。そんな焼き杉製作に奮闘したNさんの家作りを、焼き杉の作り方と共にお伝えしたいと思います。

Nさんの決意から始まつた焼き杉製作への道のりは、並々ならぬ苦労がありました。一軒分でも大変な量の外壁を、二軒分全てを焼くのですから、容易く出来るものではありません。そんな焼き杉製作に奮闘したNさんの家作りを、焼き杉の作り方と共にお伝えしたいと思います。

まずは、「焼き杉」を知る。

「焼き杉」ってどんなものだろうと思ふ方も多いのでは？ 焼き杉は古い建物の外壁仕上げに使用されていることが多く、杉板の表面を焼き炭化層を作ることで、杉板の耐久性を上げる為の技法です。製作方法は2種類あり、炭化層をそのまま残す方法と、軽く表面をブラッシングして木目を浮かび上がらせる方法があります。Nさんの家では、軽くブラッシングした後にベンガラと植物性の油を混ぜて塗り、もう一度磨く事で艶を出すという方法で行いました。この方法は、鎌倉で家造りを行っている『ぎらくなたてものや』さんのワークショップで教えていただき、「誰でも手間を掛ければ綺麗に仕上がる方法」ということで、採用させていただきました。

やつぱり決め手は、人の力だね。



バーナーは火が強く、どうしても一部だけが焼過ぎたり、残しが出たりと大変難しいものでした。施主のNさん、職人さんみたいです。

Nさん夫婦には積極的に手伝いに来てくれるお友達がいらっしゃいました。そのマンパワーがこの焼き杉成功的の秘訣だったと思います。

完成後に「種の家」のお庭で開催したBBQでは、共に汗して作り上げた外壁を見上げて苦笑いしました。皆さんご協力ありがとうございました！

杉板総数400枚 + 目板400丁の量は半端ではなく、建前の終わった2月中旬から始めた作業は、完成間近の5月頃まで毎週のように行われました。磨けば磨くほど艶を増し、達成感や満足感の味わえる作業でしたが、作業量の多さに途方にくれたり、雨に悩まされたりと苦労が多かったです。私も何度も協力して下さった皆さんとの何気ない会話が楽しかったからこそ完成させることが出来たと思います。私も何度も協力して下さった皆さんとの何気ない会話が楽しく、大変な中にも夢中になれた作業でした。皆さん本当にご協力ありがとうございました。そしてNさんはお疲れ様でした。

(文／ココラボ 山崎健治)

製作の流れ

最初は試行錯誤の作業でした。何度もワークショップを繰り返してたどり着いたのが、この工程です。炭化層を取り過ぎない仕上がりを目指しました。

今回 N 部で使用した材料	
* 杉板	… 400 枚
* 目板	… 400 丁
* 墓麻仁油	… 32 ℥
* 桐油	… 29 ℥
* ベンガラ	… 1000 g
* LPガス	… 60 kg
* カセットガス用トーチバーナー	
* ハケ・ウエス	
* たわし	

1. 焼く



2. 塗る



3. 磨く

